

第1回

学校評価（自己評価）

評価（A：十分できた B：概ねできた C：あまりできていない D：全くできていない）

① 教育目標

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
進んで学習する子の育成に努めた。	4	3	0	0	85.7	100	100
進んで挨拶する子の育成に努めた。	6	1	0	0	95.2	100	100
進んで運動する子の育成に努めた。	4	3	0	0	85.7	100	86
教育目標を学級経営方針に生かした。	5	2	0	0	90.5	100	100
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>全校集会や学級の場に於いて、めざす児童像について話し、南志見小学校が長年大切にしている児童への願いへの理解に努める。また、アンケート等に於いて意識して育成に努めているか、また、めざす児童像が身に付いているかを児童、職員にふり返るようにしていく。</li> </ul>						

② 教育課程

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
カリキュラムの編成は、適切に行われた。	3	3	0	0	83.3	100	100
各教科の標準時数は、確保することができた。	5	1	0	0	94.4	100	100
週案を活用し、計画的に進めることができた。	4	2	0	0	88.9	100	100
地域の特性を生かした教育課程の編成に取り組んだ。	3	3	0	0	83.3	100	100
奥能登スタンダードを活用した。	3	2	0	0	86.7	100	100
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>カリキュラムの実施後、不都合な点がなかったかをチェックし、南志見スタンダードに改善策を書き入れてもらう。</li> <li>2学期以降も各教科の授業時数が確保できているか、月ごとにチェックする。</li> <li>見直しを持って取り組む事ができるように月ごとの行事予定時数や位置づけについてプリントを作成し配付する。</li> </ul>						

③ 学級経営・学習指導

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
規律ある学習態度を育てた。	2	3	1	0	72.2	83	67
基礎・基本の定着を図れるように指導の工夫に取り組んだ。	2	4	0	0	77.8	100	100
分かりやすい授業に取り込むことができた。	2	4	0	0	77.8	100	100
個に応じた指導ができた。	4	2	0	0	88.9	100	100
家庭学習の定着を図るために課題や内容の工夫ができた。	1	4	0	0	61.1	100	67
掲示など、学習しやすい環境の工夫を行った。	2	4	0	0	77.8	100	100
チャレンジタイムの効果的な活用で成果を上げることができた。	0	5	0	0	66.7	100	100
学級経営方針を保護者に伝えている。	1	3	0	0	75.0	100	67
学ぶ意欲を持った学級作りができた。	1	1	2	0	58.3	50	67
朝読書などを通して、意欲的に読書を取組ませることができた。	1	3	0	0	75.0	100	100
基礎学力調査等の結果を活用し、授業改善を行った。	0	4	0	0	66.7	100	100
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭学習では、自学の取り組み方の手引き書を作成し、自学ノートの表紙裏に貼り常に確認できるようにする。</li> <li>毎週金曜日に、自学ノートを校長先生に見てもらう。また、ノートが1冊終わる毎に校長先生に提出し、見てもらう。</li> <li>町野小学校と自学ノートの交流をする</li> <li>チャレンジタイムの計画を立て、「スポチャレいしかわ」や学力調査問題などへの取組を実施する。</li> </ul>						

④ 研究

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
校内研究を計画的・意欲的に取り組んだ。	1	4	1	0	66.7	83	71
校内研究が組織的に機能した。	1	4	1	0	66.7	83	86
研究テーマを意識して授業作りを行った。	1	4	0	0	73.3	100	100
改善策	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校全体で統一してできるように、研究内容を簡潔にし、取り組みやすくしていく。「根拠をもとに自分の考えを伝える」ことができるよう、授業では「根拠カード」を提示し、根拠を持つための時間確保を意識して、授業を組み立てる。（児童も教師も）</li> <li>学力調査の分析をもとに、チャレンジタイムで短作文や活用問題に取り組み、複数の条件に合わせて書く力や考える力、書いたものを見直す習慣をつける。</li> </ul>						

⑤ 体力

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
「スポチャレいしかわ」に参加し記録の向上をめざして取り組んだ。	0	1	3	1	33.3	20	100
児童のがんばりを認め、個に応じて適切に指導した。	2	3	0	0	80.0	100	100
進んで運動しようと意欲を喚起するように工夫した。	1	4	0	0	73.3	100	100
児童が運動しやすいように環境を整えた。	2	3	1	0	72.2	83	100
改善策	スポチャレいしかわの推進に向けて、チャレンジタイム（運動）は、スポチャレを中心に行う。 ・今年度は、「シャトルボール」と「8の字跳び」を2学期から継続的に行う。記録の伸びが分かるように体育館入り口に記録を提示していく。低学年、高学年に分かれて行う。 ・シャトルボール→毎週火曜日の昼休み（1回のみ計測） ・8の字跳び →毎週木曜日の中休み（1回のみ計測）（運動会やマラソンの時期を除く） ・記録更新も大切であるが、励まし合い協力する姿の育成を第一に指導する。また、継続することの大切さを子どもたちに伝えていく。						

⑥ 保健・健康

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
不審者対応や交通安全指導など安全管理への対応を行なった。	5	1	0	0	94.4	100	100
食育や健康について具体的な指導を行った。	4	1	0	0	93.3	100	100
手洗いや歯磨きなど、適切に指導した。	4	2	0	0	88.9	100	100
縦割り班で協力して清掃できるように指導した。	3	3	0	0	83.3	100	100
改善策	・行事や季節に合わせて具体的な指導ができるよう、管理職、学級担任、養護助教諭間で綿密な情報交換を行う。掃除時間の決まりについて全職員児童で、共通理解する。						

⑦ 生徒指導

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
いじめや不登校などの問題に適切に指導、対応した。	4	2	0	0	88.9	100	86
児童の問題行動にすばやく対応した。	4	2	0	0	88.9	100	86
職員間で児童について共通理解した。	2	4	0	0	77.8	100	86
保護者からの相談や要望に適切に対応した。	4	2	0	0	88.9	100	86
場に応じたあいさつをするように指導した。	3	3	0	0	83.3	100	86
改善策	・児童理解の場を定期的に行う。（終礼時に児童理解の枠を設定する）さらに、 ・児童理解の会を定例開催し、児童の実態等について把握し、共通理解のもと共通した指導を行う。 ・あいさつの意味や意義について全児童、全職員で共通理解する。						

⑧ 校務分掌

評価の観点	自己評価				達成率	A・Bの割合%	昨年度末
	A	B	C	D			
自分の校務（仕事）を適切に処理した。	2	4	1	0	71.4	86	86
組織として校務（仕事）を適切に処理した。	3	3	1	0	76.2	86	100
改善策	・役員会議等を通して、指示・伝達を行うとともに、報連相の徹底に努め、個々の取り組みを把握していく。校務分掌に於いて、見通しを持って取り組めるよう、日々の見取りを大切にして、適切な指示を行っていく。						